

Special Interview

IMALUさん

タレント

IMALUさんは、高校時代にカナダへ留学。柔軟かつ多感な時期に新しい価値観に触れたことで、たくさんのことを吸収したそうです。そして、帰国してからご自身の世界をぐんと広げ、留学前には想像しなかった未来を手に入れました。

前回は、憧れのハイスクールライフになじむまでのお話をお聞きしました。今回は、現地での生活についての楽しいエピソードと、留学の小さな一歩が現在のお仕事の道にどのようにつながっていったのか、また、留学の経験がどのように今に生きているのかをうかがいます。

背中を押されるインタビュー、後半です！

PROFILE

IMALU (いまる) さん

1989年9月19日生まれ。東京都出身。中学卒業後、語学を学ぶためカナダの高校へと留学。帰国後、2009年にファッション誌でモデルデビュー。その後、シンガーやタレントとしてTVや雑誌、ラジオなどに活躍の場を広げる。2017年からアーティストLULU Xとしてのプロジェクトをスタート。ご両親は女優の大竹しのぶさんとコメディアンの中野家さん。

留学で英語を話せるようになったこと

どんどん世界が広がっている感じがします



留学中の1コマ

憧れの ハイスクールライフで “普通の”生活を エンジョイ

—— 映画で憧れていた外国の“ハイ スクールライフ”はどんなものでし たか？

私が留学したカナダのバンクーバーアイランドのビクトリアは、バンクーバーからフェリーで2時間半くらいかかる場所にあります。「都会すぎず、田舎すぎないところ」というリクエストで紹介してもらったのですが、海があり緑があり、山があって、のどかな街でした。

そんなビクトリアでの生活は、友達ができるまではちょっと苦労しましたが、自分の殻を破って友達を作ってからはとても楽しかったです。とは言っても、そんなに特別なことをするわけではないのですが。適度に田舎でしたから(笑)、学校に行って、帰りにコーヒーショップでお茶を飲んで、たまにビーチに行って、週末に友達と遊んで、日曜日にはたっぷり寝て、月曜日にまた眠い目をこすりながら起きて学校に行く…そんなありふれた毎日をエンジョイしました。

—— クラス活動などはしましたか？

クラブには入りませんでした。が、通っていた学校には年に1度ミュージカルシーズンがあって、希望者たちが参加する課外活動のような形で

ミュージカルをやっていたんです。2年生と3年生の時は、このミュージカルにエントリーしました。2年生ではギターで、3年生ではヘアメイクを担当したのですが、良い思い出になっています。

それから、学校のカリキュラムにアルバイトかボランティアもあったんです。卒業に必要な単位のひとつなので、3年の間に必ずどちらかを経験しなくてはならないんですね。留学生はアルバイトができないので、私はアイスクリーム屋さんでボランティアとして1カ月ちょっと働いたのですが、楽しかったです。ボランティアなのでお給料がない代わりに、仕事が終わると必ず好きなアイスクリームを取って食べさせてもらったのがうれしくて(笑)。

—— 勉強はどうでしょうか？

英語がわからない状態で入学したので、最初は授業の内容もわからなくて必死でした。卒業できないかもしれないという危機感があるくらいギリギリのところまで戦っていましたね。とにかく英語を覚えることが先決でした。

当時、カナダ人のボーイフレンドができたことは、英語の習得にも大きなプラスになりました。友達もそうですが、近い存在ができると話す機会も増えるし、気持ちを伝えたいという思いが強くなりますよね。特にボーイフレンドとはけんかをした時になかなか気持ちが伝わらないので、悔しい思いをたくさんしました。日本語なら言いたいことがパッと出ますが、「自分はこう思う！」みたいな自己主張や、怒っている表現は普通に英語を勉強しているだけではあまり習いませんよね。どう言えばいいのか、すごく考えながら話していました。それが自然と勉強になったので、言葉を覚えるためのいちばんの勉強法は親し

い人とのコミュニケーションなのかなと思います。

—— ボーイフレンドとのデートの思い出をちょっと教えていただけますか？

公園に行ったり、映画を見に行ったり、ビーチを散歩してその後フィッシュ&チップスを食べるとか、素朴な感じでした。一つ心残りがあるとすれば、同じ学校の子ではなかったもので、映画で憧れた「ロッカーの前で待ち合わせ」ができなかったんです(笑)。でも、彼との時間もとても大切な思い出です。

留学は 新しい自分としての スタート

—— 3年間の留学、全体を通して 学んだことや発見したことを教えて ください。

日本人として海外に行くと、「日本で生まれ育った自分」というアイデンティティに気付くと思うんです。自分から話さないと人とつながれない環境では、「知ってもらいたい」「話したい」という思いが強くなりますし、母国にいる時よりも自己表現して自分を出していく必要があります。だから「自分はこうだ」という思いが強くなって



いくと思います。私は留学時代、ありのままの自分で生活できていた感じがします。向こうは自由なので、髪の毛を赤にしたり、前髪だけ金髪にしたりしてファッションで遊んだりもしていました。「自分はこれが好き」という意見を持ち、表現するということは、向こうででき上がっていった部分だと思っています。

個人的な話になりますが、私は留学前、「芸能人の娘」ということで、私にとって初めての環境でもなんとなくみんなが私を知っているような状況だったんですね。留学して「初めまして、IMALUです」と言うと、「変わった名前だね、クールじゃん!」「日本って名前に由来があるんでしょ、どういう意味なの?」とか純粋に私に興味を持って聞いてくれるのがうれしかったんです。

その当時、そのことに感動したわけではないんですが、振り返ると、一人の人間として見てもらえることが居心地良かったのかなと思います。知らない土地でそれまでのイメージなどなく、ありのままで見てもらえるのは、誰でもとても楽なのではないでしょうか。私も自己を確立して人間性が一気に成長したと感じていますし、そういう意味では、留学でいったん自分をリセットするのは良いかもしれないですね。

—— IMALUさんの個性的なスタイルは留学で出来上がったんですね。その後、将来のビジョンをもって卒業されたのでしょうか。

いえ、先ほどもお話したように単位もギリギリで、先のことはまったく考えずにとにかく目の前にある課題をこなしていた感じです。補習のサマースクールにも行ったりして、なんとか卒業することができました。海外の卒業式って、マントを着て、上が四角くなっている帽子をかぶりますよね。

あれにも慣れていて、無事にマント姿でみんなで帽子を投げて、日本に帰ってきました。

英語を 身につけたことで 将来への道が拓けた

—— 高校卒業の翌年にモデルとしてお仕事を始められました。留学中には考えていなかったと思うのですが、どのようにして芸能のお仕事に進んだのですか?

卒業するにあたって、大学に進学するか、仕事を始めるのかを考えましたが、何を勉強するのもかわからなくて迷っていて。そんな時、友達が「VJ(音楽チャンネルの司会者)みたいな仕事がいいんじゃない?」と言ってくれたんです。

その時、見つけたというか力が抜けたというか。ずっと音楽が好きなので音楽に携わる仕事をしたいと漠然と思ってはいたのですが、「留学で英語も勉強したし、それもいいかも!」と発見したような感覚で。VJになりたいという希望を意識してから、親のつてなどで話が進んでデビューにつながっていきました。

—— 英語を習得したことで、「夢」が現実的な「将来」につながり、それをつかんだんですね。今のお仕事に留学が生きていると思われるのはどんなことでしょうか。

人見知りしなくなり、人に声をかけることが怖くなくなったことです。英語を話せるようになったことで、海外でも現地の方とコミュニケーションを取れるようになりましたし、どんどん世界が広がっている感じがします。言葉がわからない大変さは身にしみ

英語力の向上で
のびのびと自信をもって
自己表現が
できるように☆



てわかったので、日本にいても外国人の方が困っていたら自然に助けられることができますし。ベースにある感覚や考え方が変わったので、それは大きかったと思います。

もちろん、完璧ではありませんが、英語を身に着けたからこそ今があります。コミュニケーションの面に加えて、英語のニュアンスがわかるようになったことが仕事に生きていますね。洋楽や映画を紹介するVJのようなお仕事では、その曲や映画の良さを私の目線で伝えられたらいいなと思っています。たとえば日本語も、一人称の「俺」「僕」「私」といった使い分けや、語尾の「～です」「～やん」「～じゃねーか!」みたいな変化などでニュアンスが変わりますよね。英語の場合も、同じ言葉でも人によるクセや場面によるニュアンスの違いがあるんです。それがわかるようになったので、映画の場面やキャラクター、音楽の背景などをより深く知ることがができます。私なりに味わって、作品の魅力や楽しみ方を詳しく私の言葉でみなさんにお伝えすることができていると思います。

そうは言っても、英語は今でも勉強中です。憧れの人のインタビューを聞いてみたり、本を読んだり……。留学する前には、ハイスクールライフのドラマや映画をたくさん観ていました。高校時代にはニコール・リッ

チーという人のキャラクターやファッションが大好きだったんです。ジョークやユーモアも彼女が言うときより面白いんです。とても憧れて、留学中には現地ですぐ買った彼女のインタビューやリアリティ番組のDVDを英語字幕で観て、言い回しや言葉のチョイスを勉強したりしていました。

今は動画サイトなどもあって便利ですから、興味のある人やジャンルに関する映像を見るところから始めたら、スムーズに英語の勉強に入れるのではないかと思います。

日本を飛び出して もっと世界を広げたい

—— 昨年「LULU X (ルルクエックス)」名義での音楽プロジェクトを新たにスタートされましたね。今後はどのように活動を展開なさっていくのでしょうか。

音楽をやることはずっと夢見てきていたことで、LULU Xで私はプロデューサー的な役割も担い、やりたいものを形にすることができました。ウェブ上のサウンドクラウドで知ったクリエイターに直感的にオファーと一緒に曲作りをしたり、私が出てもらいたい俳優さんに自分でもらいたいPVに出てもらったり。自分の想い

知らない土地での
新しい経験は
すべてが
刺激的♡



ネパールで海外ロケ



LULU Xでの活動



と夢が詰まった作品を仕上げました。音楽番組やラジオで好きな音楽や映画に関わるお仕事、バラエティ番組なども大好きなので、IMALUとしてのタレント活動はもちろん継続していきます。LULU Xのほうは「実験室」と呼んでいるのですが、私が頭の中で考えてきたことを実験的に吐き出せるような、音楽を通してクリエイティブな時間を過ごせる場になったらと思っています。タレントの活動が学校の授業だとすると、LULU Xは放課後の活動のように、両方をバランス良くできたら理想です。

—— 最後に、今のIMALUさんの夢を聞かせてください。

プライベートな夢になってしまうかもしれませんが、たくさん海外に行きたいです。世界でまだまだ見られていないところがたくさんあるので、できるだけいろんなところに行ってみたいですね。ヨーロッパはまだ数えるくらい少ない国しか行ってないのもっと

いろんなところを回りたいし、南米はまだ行ったことがないので行ってみたいし、動物が好きなのでアフリカにも興味があります。

現地の空気を吸って、現地の食べ物を食べて、現地で音楽を聴いて…といった現地での生の体験をして、何かを感じたことがあるかないかというのは違うと思うんです。自分にとって新しい異文化に触れると、視野がどんどん広がっていく感じというか、世界が断然広がっていくと思うんですよ。人を見る目も性格も変わって、考え方も大きくなっていく気がします。だから、どんなに過酷なロケだったとしても、海外のお仕事はぜひやらせていただきたいと言っているんですけど(笑)。仕事でもプライベートでも、海外を回るのがひとつの夢です。

留学の3年間がなければ、今こんなふうには思わないのではないかと思います。良い意味で180度自分を変えてくれた経験で、私の人生にとってあの時間はとても大きいものでした。



Message



もし留学を考えているのなら、きっと100%プラスにしかならないので、絶対に行った方が良くと思います。単身、外国で生活するという経験は人をものすごく強くするので、何かしら良い変化が得られるはずですよ。なかなかみんながつかめるチャンスではないので、もし留学のチャンスがあるなら、迷わず行ってください。

衣装協力

ニット、インナー、スカート / TOMMY HILFINGER (PVH ジャパン) 0120-266-416

サンダル / ESPERANZA (ESPERANZA ルミネエスト新宿店) 03-3341-6150